

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ズワイガニ

学名 *Chionoecetes opilio*

系群名 北海道西部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明(京都府沖では、13～15年と推定されている)
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 不明(本海域内における再生産の可能性が高い)
索餌期・索餌場: 不明、漁場は水深400m前後の海域
食性: 成体は主に甲殻類や二枚貝、クモヒトデ類、この他に魚類、イカ類、ゴカイ類、巻き貝、ツノガイ類など
捕食者: 不明

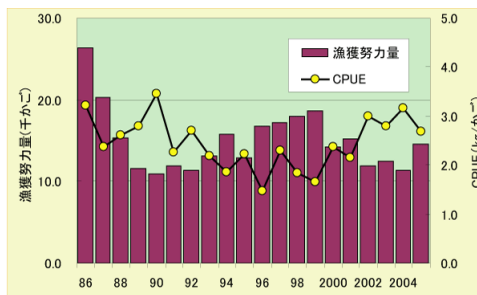
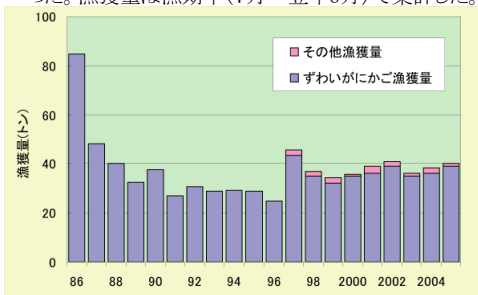


漁業の特徴

北海道西部海域におけるズワイガニは、主にずわいがにかご漁業(知事許可漁業)で漁獲されている。現在、3隻がべにずわいがにかご漁業とずわいがにかご漁業の知事許可を得ており、11月1日～翌年4月30日のずわいがにかご漁業の操業期間中は、べにずわいがにかご漁業と併行してずわいがにかご漁業を行っている。甲幅10cm(省令は9cm)以上の雄のみの漁獲が認められており、漁具はべにずわいがにかご漁業と併せて6連、1,000カゴ以内を許可条件として、自主的な保護区が設定されている。

漁獲の動向

1986年以降の北海道西部海域におけるズワイガニの漁獲量は、1990年頃まで減少した後、1997～2004年は30～40トンで比較的安定している。2005年度の漁獲量はかご漁業によるものが39トン、刺し網漁業による混獲が1トンであった。漁獲量は漁期年(7月～翌年6月)で集計した。



資源評価法

かにかご漁業の漁獲量とCPUEから資源の水準と動向を判断した。水準は、1986～2004年度のCPUE平均値を100とし、±20を中位、それ以下を低位、それ以上を高位として、2005年度のCPUEから判断した。動向は、2001～2005年度の近年5年間のCPUEの傾向から判断した。

資源状態

漁獲量は、1986年度以降減少傾向を示していたが、1990年度以降は30～40トンで安定して推移している。資源の水準は、1986～2004年度までのCPUE平均値を100とすると、2005年度は110となったため、中位と判断した。CPUEの推移には、経年的な増減を示しつつも、増加傾向がみられることから、資源の動向は増加と判断した。

管理方策

許可隻数が限られ、甲幅制限等の自主規制も行われていることから、この管理措置を継続しつつ、資源動向に合わせた漁獲を継続することで資源を維持する。ABClimitは、平成18年ABC算定のための基本規則の2-1)に基づき、2001～2005年の平均漁獲量に、近年5年間のCPUEの増加傾向が2007年度まで継続すると仮定して、予想される2007年度のCPUEと2001～2005年のCPUEの平均値の比(1.18)を乗じて算出した。ABCtargetは、資源が安定した状態にあり、現在の漁獲圧が資源を危機的な状況に追い込む危険性は少ないと判断し、ABClimitと同値とした。漁獲量が冬季の海況や魚価により変動する可能性があることから、このことに対応した管理方策を検討する必要性も指摘されている。



漁獲のシナリオ (管理基準)	管理の考え方	2007年漁獲量	F値	漁獲割合	評価
-------------------	--------	----------	----	------	----

ABClimit (1.18Cave5-yr)	資源の動向に合わせた 漁獲の継続	44トン	-	-	-
ABCtarget (1.0・1.18Cave5-yr)	現在の漁獲圧が資源を危 機的な 状況に追い込む危険性は 少ない	44トン	-	-	-

資源評価のまとめ

- にかこご漁業による漁獲量とCPUEから資源状態を評価
- 近年の低い漁獲努力量のもとで、中位水準以上のCPUEが維持されている
- 2005年度の漁獲量は、2004年度より若干増加

管理方策のまとめ

- 資源の動向に合わせた漁獲を継続することで資源を維持
- 許可条件と自主規制等の遵守による資源管理の継続

資源評価は毎年更新されます。